

今養版キャリアプランニング・マトリックス（改訂版）

令和2年5月吉日

資料1-1

指導観点	指導の柱	1 学年段階 (学びを通して気付く・知る)	2 学年段階 (将来を意識し、自ら学ぶ・行動する)	3 学年段階 (将来を見据え、自ら学ぶ・行動する)	生涯にわたっての段階 (就労定着を目指して思考・判断・表現する)
心と体	心身の健康	○健康でたくましい心と体の必要性に気付き、身につけることができる。	○自分の心と体の変化をとらえ、心身の健康を維持することができる。	○卒業後の生活を見据え、自ら心と身体の健康が保てるよう、望ましい生活を考え、実行することができる。	○職種や業務内容に合わせて食事や休息を考えて実行することができる。
	基本的生活習慣の確立	○生活リズムを整え、基本的な食生活や規則正しい生活がわかる。	○自立した生活を意識し、望ましい生活習慣を身につけることができる。		○ストレスを解消するために体を動かすなど、自分に合った生活習慣を確立することができる。
	職業生活に必要な習慣形成	○将来の職業生活に向けた基本的な習慣を身につけることができる。	○職業生活を遂行するのに必要な実践的な習慣を形成することができる。	継続	○就労生活に必要な体力の維持・増進のための食事や規則正しい生活などを習慣化することができる。
自己理解	自己有用感、振り返り	○「分かった」「できた」という体験の中で自己有用感を得ることができる。 ○活動場面で振り返りをもとに次の活動に生かすことができる。	継続	継続	○仕事を理解するために、自分に合った振り返り方などを探り、職場で活躍するために必要な方策を常に考えながら就労生活を送ることができる。
	長所・課題の理解	○自分の長所や課題に気付くことができる。	○客観的に自分の長所や課題を評価することができる。	○自分の長所や課題を踏まえて、自分の気持ちや考えをしっかりと持つことができる。	○働く上で必要な自分の長所は何かを常に考え、業務に生かせるようアレンジすることができる。 ○自分の課題と向き合い改善を図り続けることができる。
自己内省	物事に対する意欲	○時間いっぱい集中する意識を持ち、目標を達成しようと学習に取り組むことができる。 ○自主的・積極的に活動に取り組む大切さを知り、自ら努力を続けようとする気持ちを持つことができる。 ○目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。	○目標を達成するために、集中して学習に取り組むことができる。	○課題解決に向け、自ら物事に取り組むことができる。	○職場に必要とされていることを実感しながら働く続けることができる。
	課題を解決しようとする心	○自己決定・自己反省の過程を繰り返し、課題を解決する姿勢を持つことができる。	○自己決定・自己反省の過程を繰り返し、課題を解決しようとする習慣を身につけることができる。	継続	○短期的将来設計を行い、適宜振り返り、軌道修正しながら働くことに対する意欲を持ち続けられるよう工夫・努力をし続けることができる。
知識・技術	社会の仕組みなどの知識・技術	○集団生活を通して、社会のルール、マナー、礼儀などを意識して、行動に生かすことができる。	○社会のルール、マナー、礼儀などを、状況に応じて使うことができる。	継続	○社会における常識（ルールや礼儀など）とは何かを常に考え続け、社会に貢献できる行動を日常的に実践することができる。
	社会制度やサービスに関する理解と実生活での利用	○社会のルールや制度、職業に必要な資格、各種サービス、相談機関等に関する情報や知識を理解することができる。	○社会生活上の規範、法の遵守、権利侵害等への対処方法などを理解することができる。	継続	○社会生活上の規範、法の遵守、権利侵害等への対処方法などを理解し、実践することができる。
	読み書き計算などの知識・技術	○金銭管理や読み書き、計算などの生活に必要な知識を身につけ日常生活に生かすことができる。	継続	継続	○業務に必要なスキルを常に磨き続けることができる。
	消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費	○必要なものを計画的に消費することや預貯金などを通して保管の大切さを知ることができる。 ○計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や、労働の対価としての給与の意味を知ることができる。	○収入と支出のバランスを考え、模擬通貨等を使って、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることができる。	○卒業後の収入と支出のバランスを考え、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることが大切であると分かり、実行する意欲を持つことができる。	継続
職業	他者評価の受容	○他者から受けた評価に、耳を傾け、理解することができる。 ○与えられた仕事の意味を理解し、集中して取り組むことができる。 ○自分の言動が相手に及ぼす影響について知ることができる。	○他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容することができる。 ○手早さ、正確さ、丁寧さを意識しながら、与えられた仕事に取り組むことができる。	○他者の気持ちや考えを理解・尊重し、自分のあり方・生き方に生かすことができる。	○思い通りにいかないときこそ自分の言動を振り返り、修正していく習慣を身に付け、常に実践することができる。 ○職場に貢献する働きを常に意識しながら取り組むことができる。
	職業理解	○職場見学や実習を通して様々な職業があることを知り、働くことに関心を持つことができる。 ○身の回りのいろいろな職業が社会や生活に果たしている役割や意義を理解し、その仕事に求められる能力などを考えることができる。 ○職業との関係における自分の能力や適性を理解することができる。	継続	○自分の能力や適性を踏まえて、将来の職業について具体的に考えることができる。	○職場先で様々な業務があることを知り、一つでも多くの業務を覚えられるよう工夫しながら働くことができる。 ○労働の対価に見合う働きについて常に考えながら仕事に取り組むことができる。
	社会における役割理解	○学校生活や家庭生活において、自分が果たすべき役割があることを理解し、継続的に実行することができる。	○社会生活の中で自分が果たすべき役割があることを理解し、実行することができる。	継続	○社会の一員であることを常に意識し、責任ある行動を心掛けることができる。
	自分から相手に発信	○場や状況に合わせた声の大きさで、挨拶・返事・報告ができる。 ○敬語を使うなど、社会生活に必要な意思表現ができる。	継続	○その場に合った挨拶・返事・報告や相手の人権を尊重した発言をすることができる。	○TPOに合わせた距離感を学び続け、実践することができる。
コミュニケーション	状況に応じた言葉遣いや振る舞い	○相手の立場を考えて話したり行動したりすることができる。 ○場や状況に応じた適切な言葉遣い、服装、身だしなみを心がけることができる。 ○集団の中で、自分の思いや意見を適切に表現することができる。	継続	継続	○TPOに合わせた振る舞い方を学び続け、実践することができる。
	必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力	○必要な支援を他者に求めることができる。	○必要な情報を伝えたり、自分の悩みを話せたりする関係を築き自分の思いや意見を適切に伝えることができる。	継続	○同僚、上司、相談機関、卒後支援など、日常から相談できる相手を選択・決定し、日常から自分の状況を言葉で適切に伝え、支援を求めることができる。
	相手を受け入れ、自らそこに参加する	○相手の考え・気持ちを受け入れたり、集団に合わせていることができる。 ○自分と相手の違いに気付き、異性や異年齢の人たちと共に活動することができる。	○相手の立場や考え方を理解して受け入れ、かかわることができる。	○自分や他者のよい点を認め、思いやりを持って、よりよい人間関係を作り上げることができる。	○日常から感謝の心や敬う気持ちを持ち、人と接することができる。
応用力	TPOに応じた意思決定	○TPOに応じて何ができるか、何をすべきか考え、判断し選択することができる。	○自己の個性や興味・関心に基づいて、TPOに応じたよりよい選択をすることができる。	○卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活において、自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うことができる。	○TPOに応じた言動を常に心掛け、使い分けながら臨機応変に行動することができる。
	将来設計	○目標を達成するためには行程があることを理解し、与えられた計画や行程に取り組むことができる。	○学校・寄宿舎生活、家庭生活において、計画を立て、物事に主体的に取り組むことができる。	○社会生活・職業生活等に必要な習慣を確立するとともに、余暇の活用等を図り、心豊かな理想とする将来の生活を前向きに設計することができる。	○長期的将来設計を行い、適宜振り返り、軌道修正しながら働くことに対する意欲を持ち続けられるよう工夫・努力をし続けることができる。
	やりがい・生きがい	○好きな活動への意欲を学習活動へつなげることができる。	○働くことにやりがいを感じるようになる。	継続	○得た収入を計画的に遣い、生活の充実を図ることができる。
	情報活用	○学校・寄宿舎・地域社会の中には様々な活動があることを体験を通して理解できる。 ○社会の出来事に興味を持ち、働く人や仕事について調べること、情報を得るためには様々な方法があることを体験を通して理解できる。	○社会の出来事に興味をもち、働く人や仕事について調べること、様々な情報を収集し、自ら活用することができる。	○希望する進路の実現に向け、卒業後の生活に必要な情報収集・取捨選択し、自ら判断して活用することができる。	○ICT機器などを利用し、就労生活に必要な情報や余暇の充実につながる情報などの収集を適切に行い、自己責任のもと活用していくことができる。
	人間関係	○集団活動に参加し、他者と協力することができる。 ○リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームとして協力・共同して活動に取り組むことができる。	○集団において自分が果たす役割を理解し、周りとの協力することができる。	継続	○職場での役割を理解し、職場に貢献するために必要な対人面での資質を高める（雰囲気や場の空気を読むなど）。 ○上司や職場の方から言われたことを忠実に守り、職場に貢献できる取り組みを常に心掛ける。 ○社会人になってからの年数に応じた振る舞いを心掛ける。

法の遵守、規律を守る、対人面での資質向上（同世代、同世代以外…特に目上の方）、生活面のプランニング

基礎的・汎用的能力の視点	指導観点	観点の中身(解説)	具体的な要素(例)	指導の柱	1 学年段階 (学びを通して気づく・知る)	2 学年段階 (将来を意識し、自ら学ぶ・行動する)	3 学年段階 (将来を見据え、自ら学ぶ・行動する)	学校教育目標の達成	生涯にわたっての段階 (就労定着を目指して思考・判断・表現する)	
自己理解・自己管理能力	心と体	心身の状態 ・元気の維持 ・健康 ・食生活 ・睡眠・休息 ・規則正しい生活 ・ストレスコントロール	主体的行動	心身の健康	○健康でたくましい心と体の必要性に気づき、身につけることができる。	○自分の心と体の変化を捉え、心身の健康を維持することができる。	○卒業後の生活を見据え、自ら心と体の健康が保てるよう、望ましい生活を考え、実行することができる。	学校教育目標の達成	○職種や業務内容に合わせて食事や休息を考えて実行することができる。	
			ストレスマネジメント	基本的生活習慣の確立	○生活リズムを整え、基本的な食生活や規則正しい生活がわかる。	○自立した生活を意識し、望ましい生活習慣を身につけることができる。	継続		○ストレスを解消するために体を動かすなど、自分に合った生活習慣を確立することができる。	
			主体的行動	職業生活に必要な習慣形成	○将来の職業生活に向けた基本的な習慣を身につけることができる。	○職業生活を遂行するのに必要な実践的な習慣を形成することができる。			○就労生活に必要な体力の維持・増進のための食事や規則正しい生活などを習慣化することができる。	
	自己理解	自分の長所や課題を 見つめる力 ・他者からの評価を受け入れる力	前向きに考える力	自己有用感、振り返り	○「分かった」「できた」という体験の中で自己有用感を得ることができる。 ○活動場面での振り返りをもとに次の活動に生かすことができる。	継続	継続		○仕事を理解するために、自分に合った振り返り方などを探り、職場で活躍するために必要な方策を常に考えながら就労生活を送ることができる。	
			自己の動機付け	長所・課題の理解	○自分の長所や課題に気づくことができる。	○客観的に自分の長所や課題を評価することができる。	○自分の長所や課題を踏まえて、自分の気持ちや考えをしっかりと持つことができる。		○働く上で必要な自分の長所は何かを常に考え、業務に生かせるようアレンジすることができる。 ○自分の課題と向き合い改善を図り続けることができる。	
			自己の動機付け	物事に対する意欲	○時間いっぱい集中する意識を持ち、目標を達成しようと学習に取り組むことができる。	○目標を達成するために、集中して学習に取り組むことができる。	○課題解決に向け、自ら物事に取り組むことができる。		○職場に必要とされていることを実感しながら働くことができる。	
	自己内省	集中力・持久力 ・持続力・忍耐の ・積極性・自主性 ・柔軟性・応答性 ・思いやり ・前向きである ・様々な物事に興味を持つ ・謙虚な心 ・気配りの心 ・感謝の心	前向きに考える力	前向きに考える意欲	○自主的・積極的に活動に取り組む大切さを知り、自ら努力を続けようとする気持ちを持つことができる。 ○目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。	継続	継続		○短期的将来設計を行い、適宜振り返り、軌道修正しながら働くことに対する意欲を持ち続けられるよう工夫・努力を続けることができる。	
			前向きに考える力	課題を解決しようとする心	○自己決定・自己反省の過程を繰り返し、課題を解決する姿勢を持つことができる。	○自己決定・自己反省の過程を繰り返し、課題を解決しようとする習慣を身につけることができる。	継続		継続	○得た収入を計画的に遣い、生活の充実を図ることができる。
			自己の動機付け	やりがい・生きがい	○好きな活動への意欲を学習活動へつなげることができる。	○働くことにやりがいを感じるができる。	継続		継続	○社会における常識（ルールや礼儀など）とは何かを常に考え続け、社会に貢献できる行動を日常的に実践することができる。
	応用力	計画性 ・柔軟性	自己の動機付け							○業務に必要なスキルを常に磨き続けることができる。
			知識・技術	情報の理解・選択・処理等	社会の仕組みなどの知識・技術	○集団生活を通して、社会のルール、マナー、礼儀などを意識して、行動に生かすことができる。	○社会のルール、マナー、礼儀などを、状況に応じて使うことができる。		継続	○社会生活の規範、法の遵守、権利侵害等への対処方法などを理解し、実践することができる。
				情報の理解・選択・処理等	社会制度やサービスに関する理解と日常生活での利用	○社会のルールや制度、職業に必要な資格、各種サービス、相談機関等に関する情報や知識を理解することができる。	○社会生活の規範、法の遵守、権利侵害等への対処方法などを理解することができる。		継続	○業務に必要なスキルを常に磨き続けることができる。
応用力	計画立案	読み書き計算などの知識・技術		○金銭管理や読み書き、計算などの生活に必要な知識を身につけて日常生活に生かすことができる。	継続	継続	○ICT機器などを利用し、就労生活に必要な情報や余暇の充実につながる情報などの収集を適切に行い、自己責任のもと活用していくことができる。			
		知識・技術	情報の理解・選択・処理等	情報活用	○学校・寄宿舎・地域社会の中には様々な活動があることを体験を通じて理解できる。 ○社会の出来事に興味を持ち、働く人や仕事について調べることで、情報を得るためには様々な方法があることを体験を通して理解できる。	○社会の出来事に興味をもち、働く人や仕事について調べることで、様々な情報を収集し、自ら活用することができる。	○希望する進路の実現に向け、卒業後の生活に必要な情報収集・取扱選択し、自ら判断して活用することができる。	○家族や職場、世話人など、身近な人と収入と支出のバランスを考え、具体的な計画を立て、実践することができる。		
			将来設計	消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費	○計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や、労働の対価としての給与の意味を知ることができる。	継続	継続	○収入に見合った生活を送ることができる。		
キャリアプランニング能力	知識・技術	金銭管理 ・常識 ・マナー	将来設計		○収入と支出のバランスを考え、模擬通貨等を使って、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることができる。	○卒業後の収入と支出のバランスを考え、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることが大切であると分かり、実行する意欲を持つことができる。	継続	○思い通りにいかないときこそ自分の言動を振り返り、修正していく習慣を身に付け、常に実践することができる。		
			将来設計	消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費	○計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や、労働の対価としての給与の意味を知ることができる。	継続	継続	○職場に貢献する働きを常に意識しながら取り組むことができる		
			行動と改善	他者評価の受容	○他者から受けた評価に、耳を傾け、理解することができる。	○他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容することができる。	○他者の気持ちや考えを理解・尊重し、自分のあり方・生き方に生かすことができる。	○自分の言動には責任が伴うことを常に意識しながら行動することができる。		
	職業	責任感 ・向上心 ・自主性 ・実行力 ・職業理解・分析能力 ・働く意欲 ・働く喜びを知る ・将来の目標を立てる力 ・将来の目標に向けて課題を解決する力	行動と改善	他者評価の受容	○与えられた仕事の意味を理解し、集中して取り組むことができる。	○手早さ、正確さ、丁寧さを意識しながら、与えられた仕事に取り組むことができる。	継続	○就労先で様々な業務があることを知り、一つでも多くの業務を覚えられるよう工夫しながら働くことができる。		
			行動と改善		○自分の言動が相手に及ぼす影響について知ることができる。	継続	継続	○労働の対価に見合う働きについて常に考えながら仕事に取り組むことができる。		
			多様性の理解	職業理解	○職場見学や実習を通して様々な職業があることを知り、働くことに興味を持つことができる。	継続	継続	○社会の一員であることを常に意識し、責任ある行動を心掛けることができる。		
	応用力	判断力 ・計画性 ・意思決定 ・結果性	選択	TPOに応じた意思決定・感性	○TPOに応じて何ができるか、何をすべきかを考え、判断し選択することができる。	○自己の個性や興味・関心に基づいて、TPOに応じたよりよい選択をすることができる。	○卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活において、自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うことができる。	○自分の言動には責任が伴うことを意識し、TPOに応じた言動を常に心掛け、使い分けながら臨機応変に行動することができる。		
			将来設計	将来設計	○目標を達成するためには行程があることを理解し、与えられた計画や行程に取り組むことができる。	○学校・寄宿舎生活、家庭生活において、計画を立て、物事に主体的に取り組むことができる。	○社会生活・職業生活等に必要な習慣を確立するとともに、余暇の活用等を図り、心豊かな理想とする将来の生活を前向きに設計することができる。	○長期的将来設計を行い、適宜振り返り、軌道修正しながら働くことに対する意欲を持ち続けられるよう工夫・努力を続けることができる。		
			コミュニケーション	自分から相手に発信	○場や状況に合わせた声の大きさと、挨拶・返事・報告ができる ○敬語を使うなど、社会生活に必要な意思表示ができる。	○場や状況に応じ、自分の考えを発信することができる。	○その場に応じた挨拶・返事・報告や相手の人権を尊重した発言をすることができる。	○TPOに合わせた距離感を学び続け、実践することができる。		
	人間関係形成・社会形成能力	表現力 ・声の大きさ ・あいさつ・返事 ・敬語・挨拶・相談 ・言葉遣い ・話す・聞く ・人づきあい ・他者理解 ・感じること	コミュニケーション・スキル	状況に応じた言葉遣いや振る舞い	○相手の立場を考えて話したり行動したりすることができる。 ○場や状況に応じた適切な言葉遣い、服装、身だしなみを心がけることができる。 ○集団の中で、自分の思いや意見を適切に表現することができる。	継続	継続	○同僚、上司、相談機関、卒業支援など、日常から相談できる相手を選択し、決定し、日常から自分の状況を言葉で適切に伝え、支援を求めることができる。		
			他者に働きかける力	必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力	○必要な支援を他者に求めることができる。	○必要な情報を伝えたり、自分の悩みを話せたりする関係を築き自分の思いや意見を適切に伝えることができる。	継続	継続	○日常から感謝の心や敬う気持ちを持ち、人と接することができる。 ○物事を柔軟に受け入れる心を育む習慣を身につけることができる。	
			他者の個性を理解する力	相手を受け入れ、自らそこに参加する	○相手の考え・気持ちを受け入れ、集団に合わせたりすることができる。 ○自分と相手の違いに気づき、異性や異年齢の人たちと共に活動することができる。	○相手の立場や考え方を理解して受け入れ、かかわることができる。	○自分や他者のよい点を認め、思いやりを持って、よりよい人間関係を作り上げることができる。	○職場での役割を理解し、職場に貢献するために必要な対人面での資質を高める（雰囲気や場の空気を読む、柔軟性など）。		
応用力	調整力 ・理解力 ・柔軟性 ・自己統制力 ・協力	チームワーク	人間関係	○集団活動に参加し、他者と協力することができる。	○集団において自分が果たす役割を理解し、周りと協力することができる。	○集団の一員として自ら役割を理解し、協力していくとともに、その役割を遂行していくことができる。	○上司や職場の方から言われたことを忠実に守り、職場に貢献できる取り組みを常に心掛ける。 ○社会人になってからの年齢に応じた振る舞いを心掛ける。			
		チームワーク		○リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームとして協力・共同して活動に取り組むことができる。	継続	継続				

法の遵守・規律を守る、対人面での資質向上(同世代、同世代以外…特に目上の方)、生活面のプランニング
 ・領域別能力の観点では補えない部分も含めており、基礎的・汎用的能力の観点で整理することにより生涯を通じて育む観点を意識しやすくなるのではないかと考える。
 ・特別活動の充実・特別活動が要・中核 3つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」

